

項目	内容
名称	パッションフラワー [英]Passionflower [学名]Passiflora incarnata
概要	パッションフラワーはトケイソウ科の多年生つる植物。枝のない巻きひげで他物にからみつき、長さ4 mに生長する。花はトケイソウの名前の由来である、先が3つに分裂した雌しべと5つに分裂した雄しべが中心にあるのが特徴的で、その周りを多数の糸状の副冠が平らに開いている。欧米やヨーロッパでは古くから鎮静作用や催眠作用のあるハーブとして用いられてきた。
法規・制度	■食薬区分 ・果実、茎、葉、花：「医薬品的効能効果を標榜しない限り医薬品と判断しない成分本質(原材料)」に該当する。 ■海外情報 ・米国では、GRASに該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・C-グリコシド、アピゲニン、ルテオリン、ケルセチン等のフラボノイド、インドール、ハルマンアルカロイド、マルトールを含む(33)。
分析法	・パッションフルーツ乾燥抽出物のHCⅠ可溶性画分から分離したマルトールをペーパークロマトグラフィーおよび薄層クロマトグラフィーにて測定した報告がある(PMID:4421168)。 ・C-グリコシルフラボンをHPLC、LC-MS、薄層クロマトグラフィーにて測定した報告がある(PMID:20522969)。

有効性

循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
ヒトでの評価 脳・神経・感覚器	<p>メタ分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのデータベースと企業への調査により検索した無作為化比較試験2報について検討した分析において、パッションフラワー抽出物の摂取は全般性不安障害、不安神経症等患者の不安症状を改善したとの報告があるが、その有効性や安全性についてはさらなる検証が必要である (PMID:17253512)。 <p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般性不安障害の患者36名 (19~47歳、試験群18名、アメリカ) にパッションフラワー抽出物45滴/日を4週間摂取させたところ、オキサゼパム30 mg/日を投薬した群と同等の影響が認められた (PMID:11679026)。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら監訳
- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS).
- (33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シエヴァリエ
[\(PMID:4421168\) Chem Pharm Bull \(Tokyo\). 1974 May;22\(5\):1008-13.](#)
[\(PMID:20522969\) Biol Pharm Bull. 2010;33\(6\):1015-8.](#)
[\(PMID:17253512\) Cochrane Database Syst Rev. 2007 Jan 24; \(1\):CD004518.](#)
[\(PMID:11679026\) J Clin Pharm Ther. 2001 Oct;26\(5\):363-7.](#)
[\(PMID:10696928\) J Toxicol Clin Toxicol. 2000;38\(1\):63-6.](#)
[\(PMID:22876743\) J Diet Suppl. 2012 Sep;9\(3\):149-54.](#)
[\(PMID:16415120\) Drug Metab Dispos. 2006 Apr;34\(4\):577-82.](#)
- (58) The Complete German Commission E Monographs